

平成30年
3月1日号
広報
No.591

あきる野

今号の主な記事

- ・乳幼児一時預かり事業の利用登録の受付… 3面
- ・春の全国交通安全運動 4月6日～15日… 3面
- ・大島町カメラマラソン招待選手が大活躍… 6面
- ・森井大輝選手が平昌2018パラリンピック冬季競技大会に出場… 8面



安心・安全で住みよい あきる野の実現に向けて…

平成30年度施政方針

平成30年あきる野市議会第1
第1回定例会3月定例会議
において、澤井敏和市長が
発表した施政方針の内容を
お知らせします（原文を基
に掲載）。

人口減少に対する取組

まちづくりを引き続き進めてま
いります。
それでは、あきる野市総合計
画等を踏まえた6つの基本政策
について申し上げます。

福祉の充実

超高齢社会に突入した現在、
認知症患者の増加への対応は急
務となっておりますので、「認
知症サポーター養成講座」をよ
り充実させるとともに、初期段
階において症状の悪化を抑制す
るために、認知症初期集中支援
チームを編成し、医療との連携
等に向けた取組を開始いたしま
す。また、高齢者が住み慣れた
地域で自立した生活を継続でき
るよう、地域福祉を支える各種
団体等のご賛同をいただき、
「地域ぐるみの支え合い推進協
議会」を立ち上げることができ
ました。この協議体にご協力を
いただきながら、地域でどのよ
うな支援の取組ができるかなど
について議論を深めていきたく
と考えております。

さらに、地域包括支援センタ
ーについては、日常生活圏域ご
とに地域との連携を密にした相
談支援機能の拡充が必要とされ
ておりますので、東部地域にお
ける機能を充実させるための準
備を進めるなど、第7期高齢者
保健福祉計画・介護保険事業計
画に基づき、地域包括ケアシス
テムの構築に向け、取り組んで
まいります。

2面にじっく

平昌オリンピックにおける日
本人選手の活躍に、連日、日本
中が沸き立っておりますが、3
月のパラリンピックには、あき
る野市民栄誉賞受賞者である森
井大輝選手がアルペンスキー競
技に出場されます。ワールドカ
ップ総合二連覇という偉業を成
し遂げられた森井選手には、是
非とも金メダルを持ち帰ってい
ただきたいと思えます。皆さん
の熱い声援をあきる野市から送
るうではありませんか。
さて、2020年の東京オリ
ンピック・パラリンピックへの
機運が高まる中、2017年の
訪日外国人の数、消費額、共に
過去最高を記録したとの発表が
ありましたが、国内の社会情勢
に目を転じると、世界でも類を
見ない超高齢社会における人口
減少への取組、子育て支援、女
性の活躍、働き方改革などへの
取組が急務となっております。
市におきましても、地域の皆
様方との対話を通じて、地域ご
との課題の把握に努め、安心・
安全なまちづくりに取り組んで
まいりましたが、行政のみでの
課題解決の取組には限界があり
ますので、市民の皆様と協働の

誰もが安心して子育てができ
るまちの拠点として整備した
「あきる野子育てステーション
こころの」は、多くの利用者か
ら好評を得ており、特に子育て
ひろばにおいては、昨年10月の
オープン以来、延べ7千人を超
える方々にご利用をいただいで
おります。4月からは、親の育
児疲れを解消するため、「乳幼
児一時預かり事業」を開始いた
しますが、今後、更なる拠点施
設の充実に向け、幼稚園・保育
園、小中学校など、関係機関と
の連携を強化してまいります。
また、子育てと仕事の両立を
支援するため、公立阿佐留医療
センターの敷地内に整備した
「秋川流域病児・病後児保育
室」の運営が4月から始まりま
す。この建物には、多摩産の木
材を使用するとともに、施設内
に柔らかな陽が差し込む設計と
したことから、愛称を「ぬ
くもり」といたしました。
保育所等の待機児童対策につ
きましては、施設整備に対して
積極的な支援を行い、平成30年
度からは85人分の受入枠の拡大
につなげることができました。
また、保育士の確保・定着を
図るため、宿舎借上げに対する
支援を継続するとともに、保育
士等の負担軽減に寄与するため
の情報・通信技術の導入に対す
る支援を行ってまいります。さ